柿生文化

柿生郷土史料館 情報・研究誌 住所:川崎市麻生区上麻生 6-40-1 柿生中学校内

電話: 070-1503-6401/044-988-0004 https://kakio-kyoudo.jpn.org/ 第 205 号

新任校長挨拶

# 地域の拠り所と交流の場を目指して

柿生郷土史料館 館長 柿生中学校 校長 慶野 久美子



柿生郷土史料館のある柿生中学校には、桜の木が20本以上あります。今年は3月末に咲き始めましたが、その後の寒さのお陰で入学式もその可憐な姿を楽しむことができました。また、生徒が過ごす教室からの桜も見事で、本当に柿生の地は自然豊かで美しい土地だなぁと、改めて気付かされました。

4月より、柿生郷土史料館の館長となりました慶野 久美子と申します。昨年度、柿生郷土史料館のある柿

生中学校に教頭として着任し、1年間を過ごしてまいりました。それまで柿生中学校を何度か訪問する機会がありましたが、郷土史料館には、昨年の着任後に初めて訪れました。

目を見張ったのは、展示されている史料が豊富なこと。史料館の支援委員をされている方の蔵にあったという古文書や生活用具などがあるかと思えば、教科書の写真でしか見たことがない物の精巧な複製、本物の鉄砲や、近くの鶴見川で採れた砂鉄など、じっくりと見てみたくなるものがたくさん展示されていました。また、江戸時代の小学校の教科書などもあって自由に手に取ることができるのですが、内容もさることながら、教科書を手にした時の紙の感触や文字の字体などに歴史を感じながらも、人々の営みは今も昔も大きく変わっていないものがあることに気づき、不思議な感覚を覚えました。

私は物心ついたころから麻生区(当時はまだ多摩区でした)で育ちましたので、柿生郷土史料館の "郷土" というのは、自分の郷土のことでもあると感じております。私が麻生区に転入してから間もなくの小学校低学年の頃のこと。近所で土器のかけらを拾ってきた友達がいて、自分も拾ってみたいと思って場所を聞いてみたのですが「内緒だから教えられない」と言われ、悔しくて自分であちこち探しに行ったことがありました。その時は土器を見つけることができませんでしたが、郷土史料館には憧れの土器のかけらもたくさんあり、当時の思い出と、改めて土器を手にできたワクワク感を味わうことができました。

ジリース <u>禅寺</u>丸柿の歴史 15

#### 近代における川崎市域及び横浜市北部地域での果樹栽培(15)

相澤雅雄(都筑・橘樹研究会会員)

禅寺丸柿をとりあげた果樹園芸本を探す(3)

今回とりあげた『甘柿禪寺丸栽培法』の他に、禅寺丸柿だけの栽培法をまとめた単行本が他にないか、地域資料などを中心に再度博捜したが実見できなかった。この結果、『甘柿禪寺丸栽培法』は、禅寺丸柿の栽培法を解説する唯一の単行本であると位置づけてみた。そこで、この本は誰の手によって上梓されたのかを探ってみた。最初に基本的な書誌事項や本書に係った人達の略歴などから入っていくこととする。

④ 農学士本間啓太郎校閲、廣田鉄五郎・谷本眞司共著『甘柿禪寺丸栽培法』 (東京有隣堂 明治44年(1911)6月25日発行、大きさは縦19cm、横12.7cm(四六版)、禅寺丸柿を描いた口絵1頁、本文72頁)。本文は、沿革、禅寺丸の特徴、気候及び土質(気候及び土地概論、原産地の気候及び土質)、繁殖法、栽培法、販路(東京、横浜市場、枇杷島市場)、結論から構成されている。

本書は、禅寺丸についての沿革から販路に至るまで要領よくまとめた栽培法の解説書となっている。発行元の東京有隣堂について簡単に説明しておく。東京市京橋区南伝馬町二丁目(東京都中央区京橋一丁目~三丁目)にあった発行所で、発行者は穴山篤太郎である。本書の巻末に有隣堂の取り扱い書籍が掲載されている。これを見ると梨・リンゴなどの果樹園芸書、蔬菜栽培書など48種類を案内する。明治42年(1909)3月10日発行の『有隣堂営業案内第七号』を見ると、養蚕・養鶏関係及び獣医関係の書籍も扱われていた。いわゆる殖産興業関係の図書をてがけていた書店であることがわかる。取引書店は、東京の丸善書店をはじめ全国62店舗に及んでいる。『甘柿禪寺丸栽培法』もこれら店舗を通じて全国に販売されたものと考えられる。



廣田鉄五郎・谷本眞司共著 『甘柿禪寺丸栽培法』

校閲者の本間啓太郎は、神奈川県技手、神奈川県技師、栃木県技師を務めた農学士で、横浜市岡野町(横浜市保土ケ谷区峯岡町)にあった第3代神奈川県農事試験場長(明治40年2月28日~大正5年7月21日)を務めた。大正6年11月21日には横浜生糸検査所長に就任した(『蠶絲之横濱』)。著作として、『農事雑報第八十九号』(明治38年9月発行)に「米国だより」(52~53頁)を掲載する。「米国だより」は、本間啓太郎が農商務省の海外実業訓練生として渡米し、そこでの園芸に関する調査研究について農商務省の酒匂常明局長あて報告を行い、局長は有益であると判断して本誌に掲載された。なお『農事雑誌第九十号』(明治38年10月発行)、同92号、同93号、同94号には、『甘柿禪寺丸栽培法』の著者である廣田鉄五郎が神奈川県中郡農学校に在籍中に執筆した「農村小観」という短文が掲載されている。なお『農事雑報』の第1号は、明治31年7月14日に農事雑報社(発行兼編集者は十文字大元)から発刊された。実業家の十文字大元が、農業や林業・園芸は殖産興業の根元であるが、この雑誌を通じて有要有益な情報の提供に努め、実利実益を進めていきたいとの趣旨で発行した雑誌である。農業関係の最新情報の提供が行われたが、同42年に廃刊となった。

共著者の谷本眞司は、都筑郡下谷本村(横浜市青葉区千草台)の人。明治22年3月に都筑郡書記を拝命した。同年4月には税務整理補助員として橘樹郡役所勤務となる。同33年頃は都筑郡農会幹事として活動していた。大正元年(1912)から同5年まで都筑郡中里村長を務め村政に尽力された。著書に『農家年中行事』(有終会雑誌発行部明治45年1月刊、本文42頁)がある。序文は都筑郡農会長三村啓作と廣田鉄五郎が筆をとった。本書は、農民のための1年間にわたる作物の移植・手入れ・収穫などの技法が書き記されている。

亡くなった大正 10年(1921)1月5日付けの『横浜貿易新報』は、「農界恩人逝く」との見出しで、約40年間にわたり農事改良に尽力されたと、彼の功績を報じている。都筑郡の農界の恩人と称された人であった。

(続く)

シリーズ 歴史の中の女性像

# その1 ナイチンゲールの世界 (21)

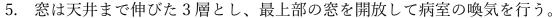
小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

#### 『病院覚え書』と病棟の建設

『病院覚え書』の冒頭に、「病院が備えるべき第一の必要条件は、病人に害を与えないことである。」とフローレンスは記しました。この言葉は、今日の視点から見ると、当時の病院という医療施設に対する考え方を、180度転換することに繋がった画期的な提言でした。このシリーズでも何度か触れましたが、病院は他に行き場のない貧しき病人や怪我人を収容する救貧施設だったのです。19世紀半ばを迎えてなお、貧民窟の住人達は「病院にだけは行きたくない。病院では死にたくない。」と口々に語っていたのです。そんな病院のイメージを、根底から覆したのがフローレンスの設計プランに基づいた聖トーマス病院の南棟、いわゆるナイチンゲール病棟の誕生でした。

フローレンスは『病院覚え書』で病棟のあり様について、次のように 記しています。

- 1. 病棟は 20 人~40 人の患者を一つの看護単位とする間仕切りなしのワンルーム (大部屋) とする。
- 2. 病室の中央を通路として、ベッドは左右に均等に並べる。
- 3. ナース・ステーションは病室の中央部とし、全てのベッドが見渡せる位置に置く。
- 4. 病室は明るい空間とし、患者のベッドーつ一つに窓があることを理想とする。少なくとも二つのベッドに窓一つ。

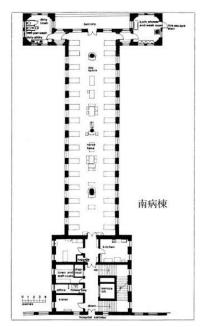


以上の5点を明記して、図面を添えています。ここでは、後に完成した聖トーマス病院南棟の図面を掲げておきます。『病院覚え書』は、他にも細々した留意点をあげていますが、フローレンスはこれまでの看護体験を踏まえて、病院を患者の容態を悪化させる場にしないための条件として、上記5点を揚げたのです。

ここで注意すべきことがあります、大病院は一つの病棟だけではなく、一つ一つの病棟を単位として、いくつもの病棟に分かれていることです。病院全体の管理部門は別に設けられますが、各病棟は廊下で繋がっていても、夫々が独立した空間として、受け持った患者の治療に専心できる仕組みになっていることです。病棟の中央にあるナース・ステーションからは全てのベッドの様子が見通せますから、患者の容態からチームを組む医師や看護師がどこで何をしているかまで、全てが見てとれるのです。患者からすると、常に見守ってもらえていると安心できるのです。婦長室は病棟全体を見渡せる位置に設けられ、重症患者用の個室(最大で2室まで)が隣りあっていました。全体の作りは極めてシンプルですから、仕切りなしの大部屋方式は、ベッド間の空間をきちんと確保しても、建築費用を抑えることが出来たのです。フローレンスは、病院建築についても専門的知識を身に着けていたのです。

フローレンスの設計プランに基づく最初の病棟、聖トーマス病院の南棟が完成したのは 1871 年でした。この病棟がきっかけとなって、当時イギリス国内で建設された病院建築は、ほとんどがナイチンゲール病棟と名付けられた大部屋方式で建てられるようになりました。各地に開校された看護学校を卒業した看護士たちの評判が良いこともあり、聖トーマス病院南棟を見学に訪れた各地の病院関係者が、こぞって大部屋方式の病棟を取り入れていったのです。ナイチンゲール病棟は、さらにイギリス植民地を通じてアジア各地にも広まったのです。日本では海軍軍医総監を務めた高木兼寛によって創設された東京慈恵医院と、大原美術館の創設者として高名な大原孫三郎が設立した倉敷中央病院が知られています。

ナイチンゲール病棟は、病院の評価を高めると同時に、看護学を学ぶ学生たちの実習の場としても高く評価されましたが、20世紀半ばごろからは、患者のプライバシー保護の観点から大部屋方式は消滅に向かいます。皮肉なことにそこから、病院全盛の時代を迎えるのです。最後まで残されていた聖トーマス病院南棟も、1987年に解体されました。 (続く)



聖トマス病院のナイチンゲー ル病棟

## 『文久二・三年王禅寺村御用留記帳』を読む -1-

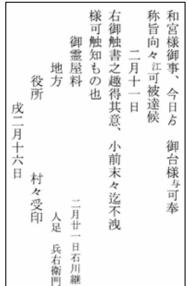
飛田三枝子(柿生郷土史料館専門委員)

平成29年、地域に根ざした文化財を多くの人々に伝えていくことを目的として「川崎市地域文化財顕彰制度」が設立されました。その制度により第1回目に決定された文化財のなかに、江戸時代、王禅寺村の名主だった志村家が大切に守ってきた「志村家文書」があります。

「志村家文書」は川崎市公文書館の目録によれば 2600 件余の大量の文書群です。 『川崎市史 資料編2近世』には326点の文献資料が載っていますが、そのうち「志村家文書」は一番多くて56点も出ています。まさに川崎の近世史を研究するうえで、なくてはならない貴重な資料といえるでしょう。

柿生郷土史料館では地元の「志村家文書」 から、多くの方に利用していただきたく、

上記の『御用留記帳』を資料集として2年前に発行しました。



御用留は領主から村々を継ぎ送られてきた通達を村で書き写した帳簿ですが、そのなかには関東取締出役からの命令書、他村からの書状、村の出来事などさまざまなことが書かれています。村役場が無かった江戸時代、御用留は村政を行うために必要な備えとして名主が作成し保管しました。「志村家文書」には享保3年(1718)から幕末まで、数年分を1冊にとじたものを含め約80冊の御用留が残っています。

上の図は『御用留記帳』の一節。文久 2 年(1862)皇女和宮と将軍徳川家茂との婚儀が執り行われた 2 月 11 日より、「和宮様」を将軍の正室として「御台様」と御呼び「たてまつるべき」という御触書が幕府より「向き向きへ」出されました。「各方面へ」ということでしょうか。そのことを王禅寺村の領主である増上寺の地方役所が領地の村々へ 16 日に廻状として触れ知らせたものを名主が受けとり、御用留に書き留め、廻状に押印し、さらに 21 日に村民の兵右衛門が石川村 (増上寺領) に廻状を持って行ったことが分かります。

この『御用留記帳』では、古文書の雰囲気を伝えたいため、また崩し字を知る一助になればと思い写真も載せました。激動の幕末、江戸近郷の村の御用留には何が書かれているのか、次回から読んでいこうと思います。

### 『文久二・三年王禅寺村御用留記帳』 (販売中)

売価 1,000円 史料館の開館日に受付でお求めください。

なお、郵送も受け付けます。史料館ホームページ一番下の「お問合せ」コーナーから申し込むか、 葉書に住所・氏名・送り先を明記して史料館宛に送ってください。送料実費となります。

#### 柿生郷土史料館 第 99 回 カルチャーセミナー

講師:芦澤浩明氏

(日本映画大学)

日時:6月7日(土)

13 時 00 分~14 時 30 分

会場:柿生中学校 武道場

参加費:無料 どなたでも

参加できます。

### 麻生区の今昔を辿る記念映画 上映と撮影秘話 『あさお誕生物語』 ~語り継ぎたい 60 年のあゆみ~

『あさお誕生物語』は、麻生区役所と日本映画大学が共同で制作したドキュメンタリー映画です。麻生の地がどのような変遷を経て、現在のような姿になったのか。過去の記録や伝聞を調べながらシナリオ作りや昔の映像の再現、古老たちへの出演交渉などを手掛けられた日本映画大学の芦澤浩明氏に、製作上の苦心談などを伺い、30分強のドキュメンタリーを映写していただきます。

街づくりに苦心された皆様へのインタビューや、昔の写真映像などで、共に麻生の歴史と現在を考えてみませんか。ご来場をお待ちしています。

## 柿生郷土史料館 開館日のご案内 【参加自由、入場無料】

◎開館日 :6月7・14・21・28日(土曜日) 7月13・20・27日(日曜日)

◎開館時間:午前10時~午後3時